

高校野球における選手獲得についての批判的検討～野球留学とスポーツ特待生問題から～

A Critical Study on Recruiting for Baseball Players in High School ～From the Viewpoint of Crossing Prefectural Boundaries to Play Baseball in High School and the Student Athletes Scholarship System～

1K04B038-5

大矢 健太郎

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 宮内孝知先生

【研究の動機】

2007 年 3 月、西武ライオンズによる裏金問題に端を発した高校野球におけるスポーツ特待生問題は社会問題にまで発展し、世間を揺るがした。違反校のほとんどは私立校であり、当該校には大会出場停止などの処分が下された。以前から選手獲得の際に不透明な金銭が絡んでいるのではないかという噂はたびたび聞かれた。その意味では、この事件は高校野球を見直す上で大きな転機となった。本来、学校教育活動の一環として行われるべきである部活動が、野球部の甲子園出場による知名度アップ、学校の売名行為になってしまっている現状は正しいのか。また、出身中学校と異なる県の高校へ進学し甲子園を目指す「野球留学生」の増加により、郷土愛に支えられて発展してきた高校野球に翳りが見え始めている。

このように勝利至上主義に陥った学校で生徒の本分が学業ではなく、野球(部活動)になってしまうことは、学校教育上問題とされるべきことなのではないか。また、高校野球における選手獲得問題を解決するためにはどのような手立てがあるか、研究を行いたいと考えた。

【研究の目的】

本研究の目的は以下の 3 点である。

- ① 高校野球を取り巻く選手獲得問題(野球留学やスポーツ特待生問題)についての現状を明らかにする。
- ② 選手を獲得することが何故いけないのかという問題点と批判要因を明らかにする。
- ③ 現在の高校野球における問題点を踏まえ、学校部活動としてあるべき姿、課題を提言する。

【研究の方法】

本研究は文献購読によって行う。具体的に、第 1 章では文献や新聞記事により、野球留学やスポーツ特待生問題についての現状を調べる。第 2 章では野球留学とスポーツ特待生問題の問題点を明らかにする。第 3 章では、第 2 章での問題点を解決すべく、提言を行う。文献が不足しているところは、インターネット(高野連の調査データ)を参考にし、補足する。

【各章の概要】

第 1 章 野球留学とスポーツ特待生問題

野球留学とスポーツ特待生問題の現状に迫った。野球留学では少年野球の盛んな大阪から地方に渡るケースが多かった。特待生問題では、過去に甲子園出場経験のある学校が違反校の半数近くを占めていた。甲子園に出場するためには特待生が影響していることがうかがえた。さらに、特待生制度が確立している学校では野球留学生も多いということがわかった。

第 2 章 高校野球における選手獲得の問題点と批判要因

甲子園大会の創始とともに高校野球における選手獲得は始まったといえる。しかし、現在に至るまで具体的な規制はほとんどされなかった。また、勝利至上主義に陥っている学校、学業を軽視している生徒、ブローカーの存在など高校野球の負の側面に迫った。サッカー界にはプロとアマチュアの理想的な選手育成システムが存在しているが、高校野球においては同様のシステムが採用されていない。このように高校野球には長い歴史があるが故に、他競技とは別の運営形態をとらざるを得ず、独自のルールも存在するのである。

第 3 章 高校野球の発展のために

本章では、選手獲得問題を解決するための方策を示した。高野連が決めた特待生問題に関する基準に加え、選手の勧誘方法のルール化や、選手の学業成績の基準を設ける必要性を説いた。さらに、これまで郷土愛に支えられ発展してきた甲子園大会を続けていくために野球留学の規制も検討すべきである。万人から見てもわかりやすく透明性のある制度を高野連は作っていかなければならない。

結章

本論文の総括と今後の高校野球のあり方についての提言をした。今回、高野連は特待生問題について明確な基準を作り、一つの区切りがついた。しかし重要なのはこれからの高校野球への取り組み方である。学校経営者は部活動として健全な高校野球にしなければならない。そして高野連は適正な高校野球が行われているか、より一層目を光らせなければならない。甲子園大会発展のための鍵となる大きな課題である。